

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号  
特許第4474486号  
(P4474486)

(45) 発行日 平成22年6月2日 (2010.6.2)

(24) 登録日 平成22年3月12日 (2010.3.12)

(51) Int.Cl.	F I
HO 4 N 7/173 (2006.01)	HO 4 N 7/173 6 3 O
HO 4 N 5/44 (2006.01)	HO 4 N 5/44 A
HO 4 N 5/91 (2006.01)	HO 4 N 5/91 P
	HO 4 N 5/91 H

請求項の数 3 (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2009-69310 (P2009-69310)	(73) 特許権者	509189444
(22) 出願日	平成21年3月23日 (2009.3.23)		日立コンシューマエレクトロニクス株式会 社
(62) 分割の表示	特願2003-403967 (P2003-403967) の分割		東京都千代田区大手町二丁目2番1号
原出願日	平成15年12月3日 (2003.12.3)	(74) 代理人	100100310
(65) 公開番号	特開2009-147975 (P2009-147975A)		弁理士 井上 学
(43) 公開日	平成21年7月2日 (2009.7.2)	(72) 発明者	大野 千代
審査請求日	平成21年3月23日 (2009.3.23)		神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地
早期審査対象出願			株式会社日立製作所デジタルメディア開発 本部内
		(72) 発明者	和田 賢治
			神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地
			株式会社日立製作所デジタルメディア開発 本部内
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 デジタル信号受信装置、デジタル信号受信方法、及びデジタル信号送受信方法

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

デジタル映像音声信号を受信するデジタル信号受信装置において、  
コピー制御情報が付随した前記デジタル映像音声信号を受信する受信手段と、  
前記受信手段において受信した前記デジタル映像音声信号を記録再生する記録再生手段  
と、  
前記記録再生手段において記録し、再生した前記デジタル映像音声信号を他の機器に対  
しデジタル信号として出力する第1の出力手段と、  
前記記録再生手段において記録し、再生した前記デジタル映像音声信号をアナログ信号  
として出力する第2の出力手段と、  
前記記録再生手段、前記第1の出力手段及び前記第2の出力手段を制御する制御手段と  
を備え、  
前記制御手段は、前記デジタル映像音声信号が前記コピー制御情報により所定のコピー  
の制限を受ける場合に、前記デジタル映像音声信号の前記第1の出力手段からの他の機器  
へのムーブ、または、前記第2の出力手段からのアナログ信号として他の機器で記録可能  
な状態での出力を可能とし、  
前記第1の出力手段は、前記他の機器へのムーブにおいては、その出力先に前記デジタ  
ル映像音声信号が記録されるべき1つの機器のみが接続されているときに、前記デジタ  
ル映像音声信号を出力することを特徴とするデジタル信号受信装置。

【請求項 2】

デジタル映像音声信号をデジタル信号受信装置で受信するデジタル信号受信方法において、

コピー制御情報が付随した前記デジタル映像音声信号を受信し、

受信した前記デジタル映像音声信号を記録再生し、

記録し、再生した前記デジタル映像音声信号を他の機器に対しデジタル信号として出力し、

記録し、再生した前記デジタル映像音声信号をアナログ信号として出力し、

前記デジタル映像音声信号が前記コピー制御情報により所定のコピーの制限を受ける場合に、前記デジタル映像音声信号のデジタル信号としての他の機器へのムーブ、または、アナログ信号として他の機器で記録可能な状態での出力を可能とし、

前記他の機器へのムーブにおいては、その出力先に前記デジタル映像音声信号が記録されるべき1つの機器のみが接続されているときに、前記デジタル映像音声信号を出力することを特徴とするデジタル信号受信方法。

#### 【請求項3】

デジタル映像音声信号をデジタル信号送信装置より送信し、デジタル信号受信装置で受信するデジタル信号送受信方法において、

コピー制御情報が付随した前記デジタル映像音声信号を送信し、

前記デジタル映像音声信号を受信し、

受信した前記デジタル映像音声信号を記録再生し、

記録し、再生した前記デジタル映像音声信号を他の機器に対しデジタル信号として出力し、

記録し、再生した前記デジタル映像音声信号をアナログ信号として出力し、

前記デジタル映像音声信号が前記コピー制御情報により所定のコピーの制限を受ける場合に、前記デジタル映像音声信号のデジタル信号としての他の機器へのムーブ、または、アナログ信号として他の機器で記録可能な状態での出力を可能とし、

前記他の機器へのムーブにおいては、その出力先に前記デジタル映像音声信号が記録されるべき1つの機器のみが接続されているときに、前記デジタル映像音声信号を出力することを特徴とするデジタル信号送受信方法。

#### 【発明の詳細な説明】

#### 【技術分野】

#### 【0001】

本発明はデジタル放送等の放送を受信する放送受信装置、およびデジタル映像音声信号などのストリームデータを記録再生するストリーム出力装置におけるに関するものである。

#### 【背景技術】

#### 【0002】

近年デジタル映像信号処理技術の発展に伴い、デジタル放送を受信するセットトップボックス（STB）や、デジタル放送番組を録画・再生するデジタルVTR（DVTR）、ディスクレコーダ等のデジタルAV装置が次々と製品化されている。また、これらのデジタルAV装置間において、映像音声信号をデジタル信号形式のまま伝送するために最も適したデジタルインターフェースとして、IEEE1394規格に定められた高速シリアルバス（以下1394バス）が有る。前記1394バス上ではストリームや制御コマンドを同時に送受信することができ、ストリーム送受信の制御や制御コマンドとしてIEC61883規格、AV/Cコマンドセットが規定されている。

#### 【0003】

ここで、不正コピーを防止する技術としてDTCP（Digital Transmission Contents Protection）方式が1394バスで採用されている。DTCP方式では映像音声ストリームにコピーに関する条件を記載したコピー制御情報が付与されており、これによって“copy free”（コピー無制限）、“copy never”（コピー禁止）、“copy one generation”（コピー1回可）の3つに区分する。デジ

10

20

30

40

50

タルVTRなどの記録装置では"copy free"または"copy one generation"のストリームのみを受信して記録することができ、"copy one generation"のストリームを記録した場合にはコピー制御情報を"no more copies"(コピー不可)に変更し、それ以上他の記録装置などによって記録することを禁止している。

【0004】

一方最近ではハードディスクドライブ(HDD)を用いて映像音声ストリームデータを記録するいわゆるHDDレコーダのようなストリーム記録再生装置が実現できるようになっている。このようなHDDレコーダでは装置内に固定されたディスク容量に限りがあるため、使用者はディスクの空き容量が少なくなってきた場合には保存しておくコンテンツをVTRや光ディスク装置などに転送してテープもしくは光ディスクなどの保存用メディアに蓄積できるようにしておく必要がある。

10

【0005】

このような状況を鑑み、DTC方式では、一度記録媒体に記録した"no more copies"のコンテンツを他の記録媒体にコピーした後に削除あるいは再生不能化することにより、コンテンツの移動を行う"ムーブ機能"を規定している。ムーブ機能は、内蔵あるいはデジタル接続された一つの記録媒体に対してのみ行うことができ、ムーブ動作中にムーブ元とムーブ先の双方に同時に1分を超える長さのコンテンツが再生可能な状態であることを禁止している。上記ムーブ機能を実装する技術としては例えば特許文献1、特許文献2に記載されているものがある。

【先行技術文献】

20

【特許文献】

【0006】

【特許文献1】特開2002-245718号公報

【特許文献2】特開2002-238023号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

上記DTC方式では、"no more copies"のコンテンツをデジタル接続された他のストリーム記録再生装置へムーブする場合は必ず一つの記録媒体に対してのみ行う規定であるため、ムーブ先以外の装置に該コンテンツを不正コピーされてはならない仕組みが必須となる。しかし、ムーブ機能の実現には、ムーブ開始前に既に他の装置との間で認証が終了している場合やムーブ中にムーブ先の装置が他の装置からリモート制御される場合など、様々な予期せぬ状況が想定されるため、実装には特別な配慮が必要になる。

30

【0008】

また、ムーブ終了時にはムーブ元のコンテンツが削除あるいは再生不能となるため、記録媒体の不足や誤った操作等によりムーブが失敗した場合、利用者は二度とそのコンテンツを視聴することができない。

【0009】

本発明の目的は、利用者に対して可能な限り安全に確実に実行でき、そしてより簡単に実装可能なムーブ機能を備えたストリームデータ記録再生装置を提供することにある。

40

【課題を解決するための手段】

【0010】

上記課題を解決するために、本発明の一実施の態様は、例えば特許請求の範囲に記載された技術的思想を用いる。

【発明の効果】

【0012】

コンテンツの著作権を尊重しつつ、ユーザにとって使い勝手の良いデジタル機器を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0013】

50

【図１】本発明の実施形態であるシステムの一構成例

【図２】本発明の実施形態である放送受信装置（ＳＴＢ）の一ブロック構成例

【図３】本発明の実施形態であるデジタルＶＴＲ（ＤＶＴＲ）の一ブロック構成例

【図４】本発明の実施形態である放送受信装置とデジタルＶＴＲとの間のムーブ処理初期手順を示すシーケンス図

【図５】本発明の実施形態である放送受信装置とデジタルＶＴＲとの間のムーブ処理実行手順を示すシーケンス図

【図６】本発明の実施形態である放送受信装置とデジタルＶＴＲとの間のムーブ処理中断手順を示すシーケンス図

【図７】本発明の実施形態である放送受信装置とデジタルＶＴＲとの間のムーブ処理終了手順を示すシーケンス図

10

【図８】本発明の実施形態である放送受信装置でムーブ処理に失敗した場合に表示する一画面例

【図９】本発明の実施形態である放送受信装置に搭載するムーブ処理対象装置リストの構成例

【発明を実施するための形態】

【００１４】

以下、本発明の実施形態について図面を用いて説明する。

【実施例１】

【００１５】

20

図１は本発明を説明するための一実施例であり、複数のストリーム記録再生装置を含むＡＶシステムの構成を示したものである。ＡＶシステムは放送受信装置（ＳＴＢ）１００、デジタルＶＴＲ（ＤＶＴＲ）２００、ＤＶＤレコーダ（ＤＶＤ）３００が互いに１３９４バス２０によりデジタル接続されているものとし、ＳＴＢ１００にはモニタ３０がアナログ接続されているものとする。

【００１６】

ＳＴＢ１００は、アンテナ１０にて受信した放送番組をモニタ３０で視聴することができ、内蔵した記録メモリに該放送番組を蓄積することも可能である。また、他のＤＶＴＲ２００やＤＶＤ３００に対して１３９４バス２０を介して放送番組のデジタル出力や制御コマンドの送受信を行うことができる。

30

【００１７】

ＤＶＴＲ２００やＤＶＤ３００は、１３９４バス２０経由で受信した放送番組を着脱可能な記録ディスクに記録することができる。

【００１８】

次に、図２を用いて、図１のＳＴＢ１００の一構成について説明する。ＳＴＢ１００は、チューナ処理部１０１、デスクランブラ１０２、デマルチプレクサ１０３、デコーダ１０４、入力処理部１０５、タイマー管理部１０６、記録／再生処理部１０７、デジタルＩ／Ｆ１０８、番組記録メモリ１０９、制御部１１０、アナログ出力端子１１１、デジタル入出力端子１１２から構成されている。

【００１９】

40

チューナ処理部１０１は、放送局から受信した複数のチャンネルから所望のチャンネルを選局し、デジタル変調された番組を復調する部分である。デスクランブラ１０２は、サービス事業者と契約したチャンネルのみを受信可能とするためにかけられている放送番組のスクランブルを解除する部分である。デマルチプレクサ１０３は、放送番組から音声データ、映像データを抽出する部分である。

【００２０】

デコーダ１０４は、圧縮された音声データや映像データを復号して、元の音声信号、映像信号に伸長する部分である。これらの信号は、アナログ出力端子１１１を介してモニタ３０等の外部へ出力することができる。入力処理部１０５は、リモコンやタッチパネルなどを利用してユーザがＳＴＢ１０１を操作する部分である。タイマー管理部１０６は、現

50

在の時間情報や放送番組のタイマー予約を管理する部分である。記録/再生処理部107は、受信した放送番組を番組記録メモリ109に記録するための記録制御と、該番組記録メモリ109に記録した放送番組を再生するための再生制御を行う部分である。

#### 【0021】

デジタルI/F108は、デジタル入出力端子112を介して1394バス20で接続した他のAV装置（例えば、DVTR200やDVD300）との間でAVストリームや制御コマンドを送受信する部分であり、送信するAVストリームの暗号化や暗号化されたAVストリームの複号化も行う。番組記録メモリ109は、放送番組を記録するメモリである。磁気ディスクや光ディスク、メモリカード、そしてこれらを組み合わせたハイブリッド形態などが考えられる。制御部110は、STB100における各部の動作を統括的に制御する部分である。

10

#### 【0022】

同様に、図3を用いて、DVTR200の一構成について説明する。DVTR200は、入力処理部201、デジタルI/F202、タイマー管理部203、記録/再生処理部204、記録メモリ205、制御部206、デジタル入出力端子207、アナログ入力端子208から構成されている。入力処理部201は、リモコンやタッチパネルなどを利用してユーザがDVTR200を操作する部分である。

#### 【0023】

デジタルI/F202は、デジタル入出力端子207を介して1394バス20で接続した他のAV装置（例えば、STB100やDVD300）との間でAVストリームや制御コマンドを送受信する部分であり、送信するAVストリームの暗号化や暗号化されたAVストリームの複号化も行う。

20

#### 【0024】

タイマー管理部203は、現在の時間情報や放送番組のタイマー予約を管理する部分である。記録/再生処理部204は、デジタル入出力端子207あるいはアナログ入力端子208を介して受信したストリームを記録メモリ205に記録するための記録制御と、該記録メモリ205に記録したストリームを再生するための再生制御を行う部分である。記録メモリ205は、ストリームを記録するメモリであり、DVTRの場合は磁気ディスクを示す。制御部206は、DVTR200における各部の動作を統括的に制御する部分である。DVD300は、上記DVTR200の記録メモリ205が光ディスクであること以外はDVTR200と同様の構成とする。

30

#### 【0025】

次に、図1に示したAVシステムのうち、STB100の番組記録メモリ109に記録した放送番組を、1394バス20経由でDVTR200の記録メモリ205にムーブする手順について以下記述する。

#### 【0026】

まず、図4を用いて、STB100がDVTR200との間でムーブ処理を開始する際に必要な手順400を説明する。利用者がSTB100の入力処理部105を介してムーブ処理を指示すると、制御部110はムーブ処理プログラムを起動する（ステップ401）。そして、制御部110は番組記録メモリ109に格納した“no more copies”のコンテンツを抽出してモニタ30上に表示し、入力処理部105を介して利用者にムーブするコンテンツを選択してもらう（ステップ402）。続いて、制御部110は、STB100に登録された全てのストリーム録画装置をモニタ30上に表示し、入力処理部105を介して利用者にムーブ先のストリーム録画装置を選択してもらい（ここではDVTR200）、DVTR200以外の装置（ここではDVD300）の接続を外すようにモニタ30上にメッセージ表示等で利用者に通知する（ステップ403）。利用者がDVD300の接続を外して次のステップに進むように指示すると、制御部110はデジタルI/F108を介して現在1394バス20上に存在するAV装置の情報を取得し（ステップ404）、1394バス20上に現在前記DVTR200以外の装置が接続されているかチェックする（ステップ405）。その結果、DVTR200しか存在しない場合は、その現

40

50

在の状態を取得するためにデジタル I / F 108 を介して 1394 バス 20 上に状態取得コマンドを発行する（ステップ 406）。一方、DVTR 200 以外にも他の装置が接続されている場合は、再度 DVTR 200 以外の装置の接続を外すようにモニタ 30 上にメッセージ表示等で利用者に警告し、以降の処理に進めないようにする（ステップ 407）。

#### 【0027】

ステップ 406 にて取得した DVTR 200 の状態が現在停止中であれば、IEC 61883 規格のストリーム転送プロトコルに基づきストリームを送出するために、STB 100 のデジタル I / F 108 と DVTR 200 のデジタル I / F 202 との間に必要なコネクションを設立する（ステップ 408）。そして、DTC P 方式に基づき “copy one generation” のストリーム（空のパケットでも良い）をデジタル I / F 108 を介して 1394 バス 20 上に送信開始する（ステップ 409）。受信側である DVTR 200 のデジタル I / F 202 は前記ストリームを受信すると、STB 100 のデジタル I / F 108 に対して認証の要求を行い、STB 100 と DVTR 200 の間で互いに相手の認証を実行する。認証に成功すると、STB 100 から送信する暗号化されたストリームを DVTR 200 で正しく復号化することができる（ステップ 410）。そして、DVTR 200 を記録一時停止状態にするため、1394 バス 20 上に記録一時停止のコマンドを発行する（ステップ 411）。

#### 【0028】

次に、図 5 を用いて、STB 100 が DVTR 200 との間でムーブ処理を実行する手順 500 を説明する。STB 100 の制御部 110 は、図 4 のステップ 402 にて選択したムーブ対象のコンテンツがアナログ方式でのコピーに制限があるかチェックし（ステップ 501）、制限がない場合には前記コンテンツを番組記録メモリ 109 上の外部からアクセスできない領域あるいは別メモリに一時的にコピーする（ステップ 502）。そして、DVTR 200 を記録開始状態にするため、1394 バス 20 上に記録開始コマンドを発行する（ステップ 503）。DVTR 200 が記録開始したことを確認した後、前記ムーブ対象のコンテンツを “copy one generation” としてデジタル I / F 108 を介して 1394 バス 20 上へ送信開始する（ステップ 504）。

#### 【0029】

ムーブ実行が開始した後、STB 100 の制御部 110 は、DVTR 200 の動作状態を取得するために定期的に DVTR 200 に対して状態取得コマンドを発行する（ステップ 505）。また、デジタル I / F 108 を介して現在 1394 バス 20 上に存在する AV 装置の情報を取得する（ステップ 506）。そして、DVTR 200 が現在記録中であり、1394 バス 20 上に現在前記 DVTR 200 以外の装置が接続されていないことを常にチェックする（ステップ 507）。また、送信し終えたコンテンツを定期的に削除あるいは再生不能とする（ステップ 508）。

#### 【0030】

ここで、DVTR 200 にセットした記録メモリ 205 の容量が途中でなくなったり、利用者が誤って DVTR 200 をリモコン操作することにより、DVTR 200 の動作状態が記録以外の状態に遷移した場合には、中断処理を実施する（ステップ 509）。中断処理の詳細については以下図 6 で説明する。

#### 【0031】

ムーブすべきコンテンツの送信が全て終了すると（ステップ 510）、STB 100 は DVTR 200 の記録状態を停止するため、1394 バス 20 上に記録停止コマンドを発行し（ステップ 511）、停止処理を実行する（ステップ 512）。終了処理の詳細については以下図 7 で説明する。

#### 【0032】

ここで、ステップ 509 において、DVTR 200 だけでなく、利用者が誤って STB 100 をリモコン操作することによりコンテンツの送信を停止してしまう可能性もある。そこで、ムーブ以外のダビング処理（Copy Free のコンテンツ）についてはダビング実行

10

20

30

40

50

中でもリモコン操作でコンテンツの送信停止を指示できるが、ムーブ処理についてはムーブ実行中にリモコン操作でコンテンツの送信停止を指示できないようにする方法も挙げられる。

#### 【0033】

次に、図6を用いて、上記ステップ508のムーブ処理を中断する手順について説明する。上記で述べた通りムーブ先の装置であるDVT R 200の動作状態が何らかの原因により記録以外の状態に遷移した場合、STB 100は1394バス20上へのコンテンツの送信を一旦停止し(ステップ601)、ムーブ処理が中断した旨をモニタ30上にメッセージ表示等で利用者に通知する(ステップ602)。そして、利用者がDVT R 200に別の記録メモリ205をセットする等必要な処理をした後に、入力処理部105を介してムーブ処理の続行を指示すると(ステップ603)、STB 100の制御部110は、DVT R 200を記録状態にするために再度記録開始コマンドを発行し(ステップ604)、1394バス20上のコンテンツの送信を再開する(ステップ605)。ステップ602において、利用者がムーブ処理の続行を指示しなかった場合や一定期間利用者からの指示が入力されなかった場合は、終了処理511へ移行する。

10

#### 【0034】

ここで、ムーブ実行中に他の装置(例えばDVD 300)が1394バス20上に接続されてバスリセットが発生した場合も上記の中断処理508と同様の処理を実行する。具体的には、STB 100がバスリセットの発生を検知した際、制御部110はデジタルI/F 108を介して現在1394バス20上に存在するAV装置の情報を取得し、DVT R 200のみが接続されていることを確認する。そして、DVT R 200以外の他の装置が接続されたことが分かると、DVT R 200の記録状態を停止するために記録一時停止コマンドを発行した後、上記中断処理508を実施する。

20

#### 【0035】

次に、図7を用いて、上記ステップ511のSTB 100がDVT R 200に対するムーブ処理を終了する際に必要な手順について説明する。

#### 【0036】

STB 100の制御部110は、番組記録メモリ109にムーブ済のコンテンツが存在していないことを確認する(ステップ701)。この際、ムーブ済のコンテンツが一部でも存在する場合には該コンテンツを全て削除あるいは再生不能とする(ステップ702)。

30

#### 【0037】

その後、ムーブ処理の実行結果を確認し(ステップ703)、前記ステップ502にて番組記録メモリ109上の外部からアクセスできない領域あるいは別メモリに前記コンテンツのコピーが存在するかチェックする(ステップ704)。そして、最後にモニタ30上にムーブ処理の実行結果等を利用者に通知する(ステップ706)。

#### 【0038】

ここで、ステップ703にてムーブ処理が成功し、ステップ704にて前記コンテンツのコピーが存在する場合には該コピーを削除し(ステップ705)、ステップ706にてムーブ処理が成功した旨を通知する。

40

#### 【0039】

一方、図8に示すように、ムーブ処理が中断により失敗した場合はムーブ処理が失敗した旨を通知し(800)、さらに前記コンテンツのコピーが存在する場合には、デコーダ104を介してアナログ出力端子111から該コンテンツを再生することができる旨を通知する。この際、デジタルI/F 108を介して1394バス20上に該コンテンツを送出することは禁止する。また、アナログコピーの制限があるコンテンツについては、アナログ出力端子111から送出的コンテンツにマクロピジョン等の処理を施し、他のストリーム記録装置に記録することができないようにする。

#### 【0040】

以上により、ムーブ処理が失敗した場合でも前記コンテンツを視聴することを可能とし

50

、アナログコピーの制限がないコンテンツについてはアナログ信号で他のストリーム記録装置に記録することができる。この際、一定期間あるいは限定した回数、画質をダウンコンバート等の条件の下で前記コンテンツの再生を可能とする方法もある。

【 0 0 4 1 】

ムーブ失敗時のその後の具体的な画面表示として 8 0 1 のような選択肢をユーザに提示してもよい。

【 0 0 4 2 】

また、ムーブ処理が中断した場合、既にムーブ済みのコンテンツが全体の何割に相当するかによって（例えば、半分以上のコンテンツを既にムーブした場合等）、前記別メモリにコピーしたものを削除する方法もある。

【 0 0 4 3 】

さらに、本実施例の S T B 1 0 0 とモニタ 3 0 を一体化した装置の場合には、前記別メモリにコピーしたコンテンツをデジタル I / F 1 0 8 およびアナログ出力端子 1 1 1 を介して外部へ送出せず、内蔵したモニタ 3 0 上でのみ再生可能とする方法もある。

【 0 0 4 4 】

ここで、図 4 のステップ 4 0 4、図 5 のステップ 5 0 6 で取得する現在 1 3 9 4 バス 2 0 上に存在する A V 装置の情報と、図 4 のステップ 4 0 5、図 5 のステップ 5 0 7 で接続装置がムーブ先装置のみであるかチェックする方法の一例を説明する。

【 0 0 4 5 】

1 3 9 4 バス 2 0 上に装置を接続すると、他の装置と重複しないように該装置に対して自動的にノード I D というアドレスが 0 から 6 2 まで昇順に割り当てられる。このノード I D は、接続構成が変化する度に割り当てられる値も変化する可能性がある。制御コマンドなどに利用するアシンクロナス通信では、該ノード I D を使用して通信を行う。一方、1 3 9 4 バス 2 0 に接続する S T B 1 0 0 や D V T R 2 0 0 など通常の A V 装置は、固有のユニーク I D という識別子を備えている。

【 0 0 4 6 】

前記ステップ 4 0 4、ステップ 5 0 6 では 1 3 9 4 バス 2 0 上に存在するノード I D を取得し、前記ステップ 4 0 5、ステップ 5 0 7 では該ノード I D が 0 と 1 のみであることをチェックした後、ムーブ先装置に録画機能があることを確認する方法がある。あるいは、前記ステップ 4 0 4、ステップ 5 0 6 では 1 3 9 4 バス 2 0 上に存在する全装置のユニーク I D を取得し、前記ステップ 4 0 5、ステップ 5 0 7 では取得したユニーク I D の数が 1 であることをチェックした後、ムーブ先装置に録画機能があることを確認する方法がある。

【 0 0 4 7 】

上記の方法に加え、録画機能を備えた不正な装置（例えば、2つの記録媒体を備え、同時に録画できるような装置）に対してムーブ処理を行わないために、特定の装置に対してのみムーブを行う方法がある。例えば、S T B 1 0 0 の制御部 1 1 0 に、図 9 に示すようなムーブ処理対象装置リスト 9 0 0 を搭載する。該リスト 9 0 0 には、ムーブ処理対象とする A V 装置を一意に特定できる情報、例えばメーカー名やモデル名を登録する。そして、前記ステップ 4 0 4、ステップ 5 0 6 にて 1 3 9 4 バス 2 0 上に存在する A V 装置からノード I D と / あるいはユニーク I D と共に該情報を取得し、前記ステップ 4 0 5、ステップ 5 0 7 にてムーブ先装置以外が接続されていないことをチェックすると共に、該ムーブ先装置が前記ムーブ処理対象リスト 9 0 0 内に登録されている装置であることを確認する。該ムーブ先装置が該リスト内に登録されている装置であればムーブ処理を実行し、登録されていない装置であればムーブ処理を中断する。前記ムーブ処理対象装置リスト 9 0 0 の内容は、外部からの改ざんを防止するために暗号化処理等を施して格納する。また、放送やインターネットによるダウンロードや I C カードや専用端末等を用いて該リスト 9 0 0 内容を更新することも可能とする。

【 0 0 4 8 】

以上述べた様にすれば、ムーブ実行前に既にムーブ先以外の装置との間で認証処理が終

10

20

30

40

50



了している場合でも該装置の接続を外さなければムーブ実行できないため、必然的にムーブ実行時には1394パス20上にムーブ元(STB100)とムーブ先(DVTR200)のみが存在することとなり、他の装置による不正コピーを簡単に防ぐことができる。また、ムーブ先は通常の"copy one generation"のコンテンツを記録するのと全く同じ動作をすれば良い。

【0049】

また、ムーブ実行前に予めムーブ対象のコンテンツを別メモリ領域にコピーして、ムーブ処理に失敗した場合に該コピー内容をアナログ形式でのみ再生可能となり、利用者に対しては本来ムーブできるはずだった番組をアナログ形式で残すことができる。

【0050】

ここで、本実施例ではムーブ元装置としてSTB100を例に挙げたが、DVTR200やDVD300でも良い。

【0051】

本発明によれば、一旦ストリームデータ記録再生装置により記録された、コピー制限されているコンテンツを、他のストリームデータ記録再生装置に転記することができ、その際に不正なコピーを作成される恐れがない。また、記録領域不足や操作誤りによりストリームデータの転記に失敗した場合にのみアナログ再生することができ、利用者に対して安全で使い勝手の良いシステムを提供することができる。

【符号の説明】

【0052】

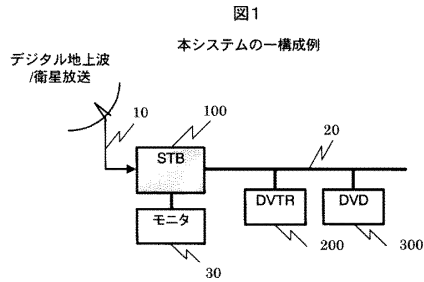
10...アンテナ  
30...モニタ  
100...放送受信装置  
200...デジタルVTR  
300...DVDレコーダ  
104...デコーダ  
105、201...入力処理部  
107、204...記録/再生処理部  
108、202...デジタルI/F  
109...番組記録メモリ  
205...記録テープ  
110、206...制御部  
111、208...アナログ端子  
112、207...デジタル端子

10

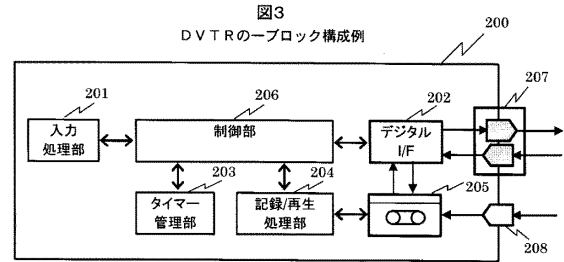
20

30

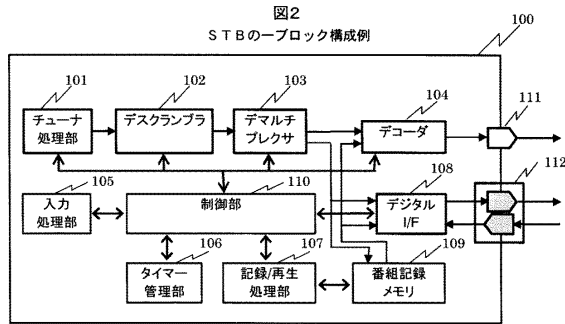
【図1】



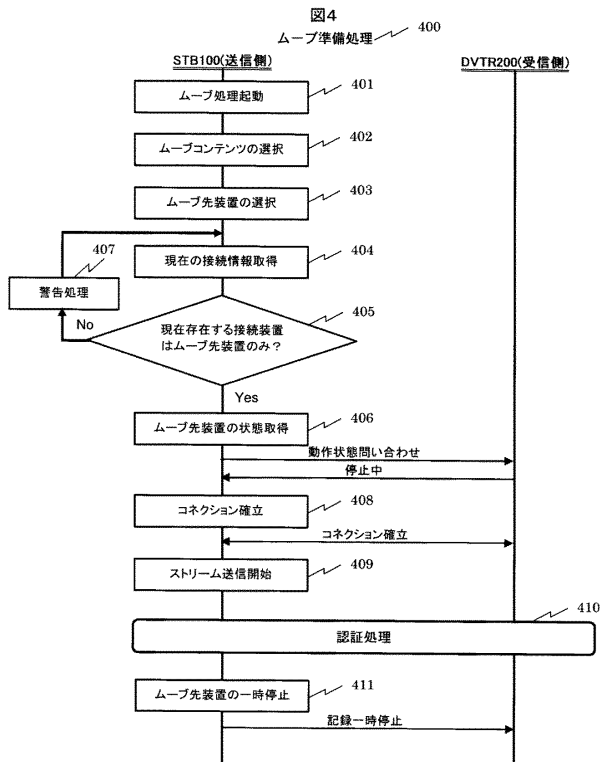
【図3】



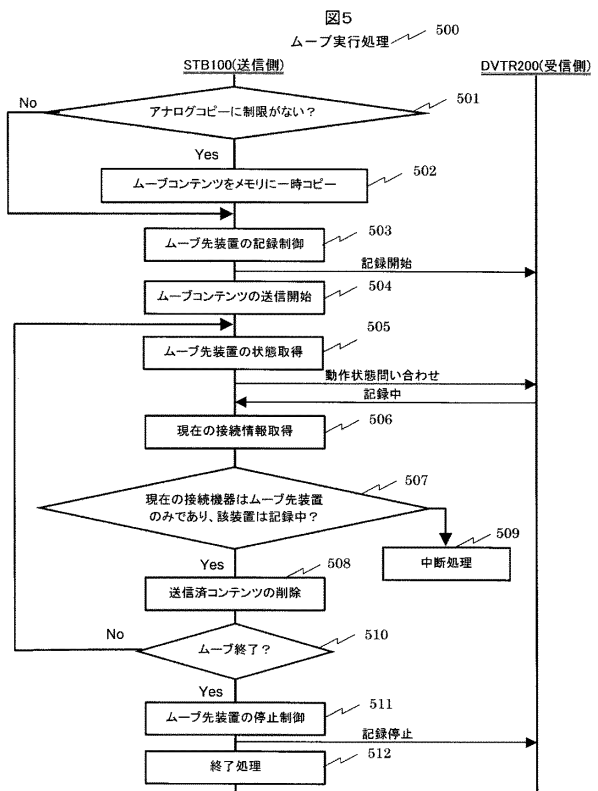
【図2】



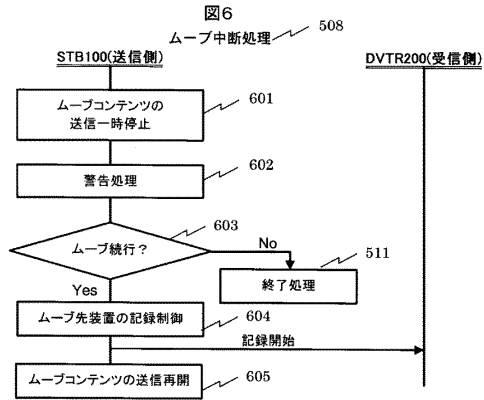
【図4】



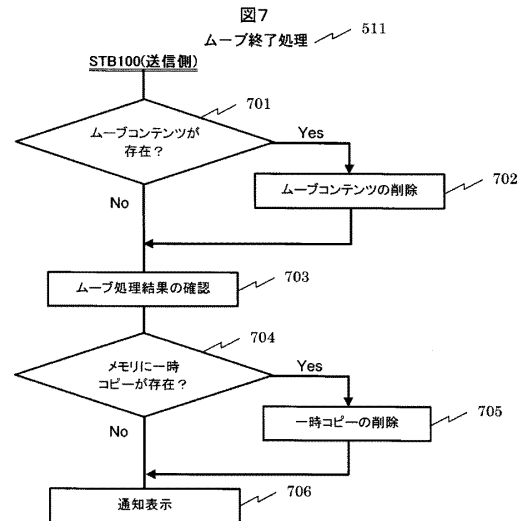
【図5】



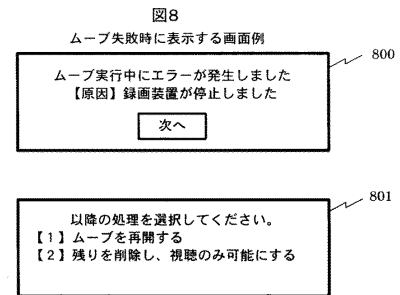
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【図 9】

図9  
ムーブ処理対象装置リスト

カテゴリ	メーカー名	モデル名
DVTR	A 社	A100
DVD	B 社	B200
DVD	B 社	B300
...	...	...

900

---

フロントページの続き

審査官 坂東 大五郎

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

H 0 4 N 7 / 1 6 - 7 / 1 7 3

H 0 4 N 5 / 4 4 - 5 / 4 6

H 0 4 N 5 / 9 1 - 5 / 9 5 6